

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 7 部門第 1 区分

【発行日】平成31年1月10日(2019.1.10)

【公開番号】特開2018-170301(P2018-170301A)

【公開日】平成30年11月1日(2018.11.1)

【年通号数】公開・登録公報2018-042

【出願番号】特願2018-150458(P2018-150458)

【国際特許分類】

H 0 1 R 25/00 (2006.01)

H 0 1 R 13/73 (2006.01)

【F I】

H 0 1 R 25/00 H

H 0 1 R 13/73 A

【手続補正書】

【提出日】平成30年11月22日(2018.11.22)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

前面に開口面を有するボディと、
前記ボディの前記開口面を覆うように前記ボディに組み合わされるカバーと、
前記ボディと前記カバーとを結合する組立枠と、を備え、
前記カバーは、幅方向の両端から突出する第 1 突部を有し、
前記ボディは、前記幅方向の両端から突出する第 2 突部を有し、
前記組立枠は、前記第 1 突部に前方から接触する第 1 辺部と、前記第 2 突部に後方から
接触する第 2 辺部と、を有しており、
前記第 1 辺部と前記第 2 辺部とは前記幅方向にずれて配置され、
前記組立枠は、前記第 1 辺部と前記第 2 辺部との間に前記第 1 突部及び前記第 2 突部を
挟む
配線器具。

【請求項 2】

前記組立枠は、前記第 1 辺部と前記第 2 辺部とを連結する連結辺部を更に有し、
前記カバーは、前記幅方向の一端面に前後方向に沿った組立溝を更に有し、
前記連結辺部は前記組立溝に嵌るように構成されている
請求項 1 に記載の配線器具。

【請求項 3】

前記組立枠は、前記幅方向における前記ボディ及び前記カバーとの対向面から突出する
脚片を更に有し、
前記脚片の先端部には、前記ボディと前記カバーとの少なくとも一方に引っ掛かる引掛
爪が形成されている
請求項 1 又は 2 に記載の配線器具。

【請求項 4】

前記第 1 突部、前記第 2 突部、及び前記組立枠からなる結合構造は、前記ボディ及び前
記カバーの前記幅方向の両側に少なくとも一対設けられている
請求項 1 ～ 3 のいずれか 1 項に記載の配線器具。

【請求項 5】

前記組立枠は、前記第 1 辺部と前記第 2 辺部とを連結する連結辺部を更に有し、

前記連結辺部は、上下方向に並ぶ 3 本の棧部を有し、

前記第 1 突部は、前記 3 本の棧部のうち中央の棧部にて前記上下方向に分離された一対の第 1 突起を有し、

前記第 2 突部は、前記 3 本の棧部のうち中央の棧部にて前記上下方向に分離された一対の第 2 突起を有する

請求項 1 ～ 4 のいずれか 1 項に記載の配線器具。

【請求項 6】

前記組立枠は、前記第 1 突部の先端面と突き合わされる側壁を更に有する

請求項 1 ～ 5 のいずれか 1 項に記載の配線器具。

【請求項 7】

前記組立枠は、前記第 1 突部に対して後方から接触する補助リブを更に有する

請求項 1 ～ 6 のいずれか 1 項に記載の配線器具。

【請求項 8】

請求項 1 ～ 7 のいずれか 1 項に記載の配線器具に前記組立枠として用いられる組立部材。

【請求項 9】

請求項 1 ～ 7 のいずれか 1 項に記載の配線器具の一部であって、

前記組立枠によって互いに結合される前記ボディ及び前記カバーを備える器具本体。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0007

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0007】

本発明の一態様に係る配線器具は、ボディと、カバーと、組立枠と、を備える。前記ボディは、前面に開口面を有する。前記カバーは、前記ボディの前記開口面を覆うように前記ボディに組み合わされる。前記組立枠は、前記ボディと前記カバーとを結合する。前記カバーは、幅方向の両端から突出する第 1 突部を有する。前記ボディは、前記幅方向の両端から突出する第 2 突部を有する。前記組立枠は、第 1 辺部と、第 2 辺部と、を有している。前記第 1 辺部は、前記第 1 突部に前方から接触する。前記第 2 辺部は、前記第 2 突部に後方から接触する。前記第 1 辺部と前記第 2 辺部とは前記幅方向にずれて配置される。前記組立枠は、前記第 1 辺部と前記第 2 辺部との間に前記第 1 突部及び前記第 2 突部を挟む。